

インタビューコーナー

インタビューコーナー

…地域で実践活動されている方にインタビューしました…

八代にツルを呼び戻そう！～先人たちの意思を引き継ぐ～



八代のツルを愛する会（昭和 60 年設立）

会長 上田 悟さん（75 歳）

本州唯一のツルの渡来地である八代で、ツルの保護活動を続けておられる「八代のツルを愛する会」会長の上田悟さんにお話を伺いました。

※ 八代にやってくるツルはナベヅルです。ナベヅルは、ツル科ツル属に分類される大型の鳥類で、シベリア南東部や中国北東部で繁殖し、冬に日本にやってくる渡り鳥です。

※ 全体的に灰黒色をしていて、首から上は白く、頭頂は赤い皮膚が露出しています。身長は、90～100 cm、翼長は 45～50cm、くちばしは 10cm 程度で、体重は 3.5～4kg ほどです。



【放鳥したツル】

『鶴いこいの里交流センター ホームページ』より

【ツルの性格や生態はどのようなものですか？】

以前、監視員を 8 年やりましたが、今でもよくわかりません。

ツルの性格は、渡来した数によっても違ってきます。八代のように少数（H23 は 2 家族で 6 羽）のところでは、縄張り意識や警戒心が強くなります。ある時、5 羽で渡って来ましたが、到着して 1 羽だけ家族から追い払われ、八代から出て行ってしまったことがありました。1 羽は迷いヅルだったのでしょう。ツルは空の上では縄張りが無く群れになる習性があるようですが、地上に降りると縄張り意識が働くようです。

また、ツルは子供が成長するまでは一緒に過ごしますが、青年（亜成鳥）になると子供は青年団（亜成鳥の 20～30 羽の群れ）に入ります。この青年団が八代に来ると家族が増えて良いのですが、残念ながら近年、八代にはやってきていません。

【八代とツルの歴史を教えてください。】

江戸時代には、幕府や藩がツルの捕獲を禁じるなどして、ツルは日本各地に渡って来ていました。しかし、明治維新の頃から捕獲を禁じる制度がなくなると、各地でツルが乱獲されるようになります。そうした中、八代では、人々は申し合わせでツルの捕獲を禁止し、ツルを保護するようになります。この保護活動は、明治 20 年の県による八代村内でのツルの捕獲禁止、大正 10 年の「八代村ツル渡来地」の天然記念物指定、さらに昭和 30 年の「八代のツルおよびその渡来地」の特別天然記念物指定へとつながっています。

【八代のツルを愛する会を設立したきっかけは何だったのでしょうか？】

昭和 15 年頃には 350 羽いたツルも昭和 60 年には 60 羽までに減ってしまいました。そこで、ねぐらの手入れや給餌場の整備に、もっと力を入れていかなければならないと、同年「八代のツルを愛する会」を設立しました。

【会員はどのような方々ですか？】

現在の会員は、40～50 名で、元八代小学校の校長先生など八代に関わりがあった方々が会員になっておられます。年齢層は、60 歳以下もおられますが、主に 60 歳台から 70 歳台で、上は 80 歳台までとなっています。マスコミの方もいらっしゃいます。

【どのような活動を行われているのでしょうか？】

- ① 毎年 10 月の第一土曜日にボランティアを公募し、ねぐらを整備しています。最近は県外や企業からの参加も増え、去年は 280 人の方々に参加していただきました。



【ねぐらの湿地】



【すり鉢状のねぐら】

- ② 全部で11カ所あるねぐらの草刈りを年数回行っています。ツルの生息環境を護るため、ほとんどは非公開です。ツルは2家族だけですが、もし、なにかあって、ねぐらから避難しなければならなくなった時のために予備のねぐらを整備しています。ツルの滞在中は、ねぐらの使用状況調査や保護監視のため、ねぐらをパトロールしています。
- ③ 80アールある給餌田を、餌となるイネ科植物の栽培やドジョウの生息環境の整備、エサ用の麦栽培などの試験場として管理運営しています。校長会OBの方も毎年ボランティアで草刈りに来てくださいます。
- ④ 広報誌「ツルの里だより」をナベヅル環境保護協会と協同で年3回発行しています。この4月に第36号を発行しました。
- ⑤ 野鳥の会との共催による「八代のツルの学習探鳥会」や研修会などを開催しています。昨年の学習探鳥会では「鳥インフルエンザ」について学習しました。
- ⑥ 毎年12月にツル慰霊祭を行い、亡くなったツルを供養しています。



【給餌田】

【ツルを保護していく中でどんなことに苦労されていますか？】

ツルが来てくれたら苦労は無くなるのですが、ほとんどの仕事の実働ですので、八代の人口減や高齢化による人手の確保に苦労しています。

【今までツルを保護していく中で一番うれしかったことは何ですか？】

会員のみんが良くやってくれることです。人数も減り高齢化しているのですが、たまに作業を休まれた後には「ご無礼しました。」とおっしゃられる。本当によくやったださりうれしく思います。

あと、野鶴監視所に募金箱を置いていますが、それに募金していただけるということです。観光地などでよく募金箱を見かけますが、なかなかできることではありません。「有り難いな」と思います。

【これから八代はどんな地域になればよいと思われませんか？】

ツルが来てくれて、もっと子供が住めるような地域になればよいと思います。子供がいなかつまらないですからね。

まず太華山山頂に登ってみてください！

～周南市のランドマーク～



**太華山自然保護協議会及び櫛浜愛山会
会長 田中義啓さん (73 歳)**

平成 23 年 6 月 26 日に「太華山自然保護協議会」が、太華山の環境保護などを目的に設立されました。協議会及び、協議会の構成団体「櫛浜愛山会」の会長でもある田中義啓さんにお話を伺いました。

【太華山とはどんな山ですか？】

太華山は標高 362m、市内はもちろん近隣各市からもよく見える周南市のランドマークです。また、瀬戸内海国立公園の一部で山頂付近は第 2 種特別地域（※1）に指定されています。南北に長くなだらかな稜線を持ちながら東西斜面は急峻で、変化のある自然が保たれていますが、昔から信仰の山でもあり、山頂の大島不動尊には多くの方がお参りされています。大島半島にある突出した独立峰のため、山頂からの景観は 360 度見渡せ、東の室津半島から西の防府市沖まで、遠く四国・九州も含む抜群の多島海美が堪能でき、目を転ずれば足元のコンビナート群や各市の街並み、中国山地も含め周南地域を一望できます。登山専用車道（通称鉢巻道路）は旧海軍の遺産で、戦後できた下山専用車道と併せ、新幹線の停まる徳山駅から車だと約 30 分で山頂駐車場に到達できる大変アクセスの良い山です。華西小踏ルートハイキングコースは徒歩 45 分程度で、登山の雰囲気味わえます。

【太華山自然保護協議会を設立されたきっかけは何ですか？】

これまで、どちらかというと太華山に市民も市当局も関心が薄かった印象があり、最小限の補修手入れはあったものの、荒れた状態が続いていました。これを憂慮した地元の有志で平成 21 年 1 月に櫛浜愛山会を組織し、同年 4 月の維持管理業務受託で活動を開始するとともに、県や市にも要望し問題点を一つずつ処理してきました。地権者や県のご了解をいただき修景伐採がかなり進んだの



【山頂から徳山湾を望む景色】



【山頂から笠戸湾を望む景色】

はその一例です。

2年間の活動で、かなり状態は改善されましたが、範囲が広いという関係者も多いことから、太華山の自然保護に総合的に取り組むため、平成23年6月に太華山自然保護協議会を立ち上げました。メンバーは櫛浜愛山会、鼓南なんでもやろう会、櫛浜、鼓南の各コミュニティ推進協議会及び行政各部門です。

【櫛浜愛山会ではどのような活動が行われているのですか？】

- ① 車の登山道とハイキングコース（華西小踏ルート）、山頂広場、トイレ3カ所の維持管理を行っています。担当範囲の巡回点検と道路・壁面等の除草・清掃、側溝の堆積物・土砂除去、障害物や危険樹の伐採除去などが主なものですが、小落石や側溝詰まりを放置すると大きな災害を引き起こすので気が抜けません。山頂2カ所のトイレ給水は麓から軽トラックで運び上げるので、シーズンや行事の時は1日に何回も往復することになります。



【展望台からの山頂の様子】

- ② 夏と秋にクリーンハイキングを行っています。ボランティア参加者と一緒にハイキングしながら清掃します。平成24年8月5日の自然公園クリーンデーには、太華中学校から20名の生徒さんが参加してくれました。



【道案内の看板】

- ③ 案内看板の設置を行っています。一般的に看板・標識類が少ないため逐次整備していきたいと考えていますが、大型や基本的なものは市に要望しています。

- ④ 元旦には初日の出新春登山、4月の第一日曜日に山開きなど、コミュニティ協議会主催、愛山会共催で行っています。
- ⑤ 投棄ごみの大規模な回収撤去を年に数回実施しています。域外から不法投棄する不心得者がおり、最近当会で発見した2件は個人を特定し警察に通報しました。

⑥ 山頂の修景伐採など、改善が必要な事項について行政への提言と協力を行っています。

【檜浜愛山会のメンバーはどのような方ですか？】

マンパワーが必要なので広く地元呼び掛け、メンバー48人(女性8人含む)は全員檜浜地区の住人です。約半数の人が刈り払い機やチェーンソーの安全講習を受けています。「ふるさとの山を大切に」という気持ちが荒天候時の素早い巡回対応などにつながっていると思います。これからは会の活動を持続するため、年齢層の拡大を考えなくてはなりません。

【環境保全活動が続ける中でどんなことに苦勞されていますか？】

数年前の活動開始時は太華山の保全状態があまり良くなかったもので、正常に戻すのにこれまで無我夢中でやってきました。メンバーもよく協力し、今ではかなり良くなったと自負しています。愛山会の担当区域外の下山線は維持管理状態が今一つであることから、全体評価にも影響するので協議会で検討中です。

ともかく、まだ実状と国立公園特別地域の意義が一般的によく知られていないので、これを知っていただく必要があります。その意味で、本年改正された周南市まちづくり総合計画後期基本計画において「瀬戸内海国立公園の整備活用」の1項目が追加されたのは喜ばしいことです。

【これからの太華山はどのようになればよいと思いますか？】

「まず、太華山に一度登ってください」と言いたいですね。周南市内の観光資源としては第一級だと思います。他にも紹介したいことは沢山ありますが、まず来て、見て、感動していただきたいと思います。

最近来山者も増えていますが、私たちは安直な行楽地を目指すのではなく、本当に山を愛する人に少しだけお手伝いする程度に留めたいと考えています。

※1) 国立公園法で第二種特別地域は「特に農林漁業活動について、努めて調整を図ることが必要な地域」とされています。